

2015 7/14

No.1998

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



日頃の罪やけがれを青カヤで作った茅舟(かやぶね)に託して海に流し、無病息災を願う富岡八幡宮(横浜市金沢区富岡東)の伝統神事「祇園舟」が5日、同区沖で行われた。800年以上にわたり受け継がれ、市の無形文化財に指定されている。



contents

視点・点描	3
関心が集まる超小型EV	
講演録	4
「経営者がカギ握るマイナンバーへの対応 厳格になるプライバシー管理とトップの責任」 日本個人情報管理協会理事長 中島 洋	
経 済	8
異次元緩和「出口」さらに険しく 深まる財政規律の弛緩リスク	
国 際	10
ギリシャ、ユーロ離脱が視野に 国民投票で財政再建策を拒否	
企業最前線	12
建設現場に女性パワー 「5年以内倍増」目指す	
くらし2015	14
ジェネリックのシェア80%目標	
広告珍談	16
広告はおもしろい① どこの広告だろ？	
NNAアジア経済レポート	17
会員のページ	18
設立50周年は来年4月に(その12)講演録抄録② 会員の動き	
会員のページ	19
設立50周年は来年4月に(その12)講演録抄録②	

事務局だより

◇横浜定例講演会

2015年8月10日(月)

13時30分～15時

ホテルモントレ横浜 3階

「ビクトリア」

講師は東京大学名誉教授、火山

噴火予知連絡会会長の

藤井 敏嗣 氏

演題は「日本の火山活動の現状
と今後」(仮題)

視点 点描



関心が集まる超小型EV

日本の最先端技術が詰まった水

掛けている。

に浮く超小型電気自動車（EV）
に関心が集まっている。開発して
いるのは川崎市幸区のベンチャー
企業「F O M M（フォーム）」。

「意外にパワフル。静かで操作
性もいい。小さいから狭い所でも
走行できる」。同社が本社を置く
かわさき新産業創造センター（K
B I C）の駐車場。操縦かん型の
ハンドルを握って試乗した福田市
長は、そう感想を述べた。エネ
ギー改革委員会の幹部もスミーズ
な走りを体験し満足そうだった。

全長約2・5メートル、全幅約1・3メートル、
全高約1・5メートル。軽自動車より小
さいサイズに、大人4人が乗れる。
前輪にそれぞれ出力5キロワットのイン
ホイールモーターを備え、最高速
度は85キロメートル。バッテリーは着脱可
能なカセット式で、フル充電で最大
150キロメートル走行できる。バッテリー
を除いた車重は約450キログラムだ。
内部に水が入らないバスタブ構
造を採用し、水に浮く。ゲリラ豪
雨や台風などで洪水が発生した場



合には、水面を約1メートルの速度で移動できる。日常的使用は想定していない、あくまでもエマージェンシー機能だが、これが関心を集める大きな特長だ。

鶴巻日出夫社長は「超小型EVは川崎発でも、モーターは三重県の企業が、フレームは石川県の企業が製造しており、『メイドインジャパン』の固まり」と、日本の先端技術にこだわりをみせる。

同社では、15年中にタイに合弁会社を設立し、16年中に開発を終えて生産開始、17年春にはタイ国内で販売を開始する計画。タイには販売に必要な超小型EVの規格がない。鶴巻社長は「まず欧州の規格に適合させ、それをタイの規格として認定を受け、販売を実現させたい」と話している。

（前神奈川新聞社川崎総局長

小松 裕史）

